

YCU PLAN

2016

(公立大学法人横浜市立大学 平成 28 年度 計画・予算概要)



公立大学法人 横浜市立大学

Public University Corporation Yokohama City University

はじめに

本法人において、平成 28 年度は「第 2 期中期計画（23～28 年度）」の最終年度にあたり、現中期計画の確実な達成や、29 年度から始まる第 3 期中期計画を見据えた取組を行うなど、本法人の更なる発展に向けて教職員一体となって取り組む重要な年度と位置付けています。

18 歳人口の減少、超高齢社会の到来、グローバル化の一層の進行など、大学・病院を取り巻く環境が大きく変化している中、第 3 期中期計画期間に向け、本法人の強みや特長を伸ばし、学生・患者さん・市民の皆さんにその成果を還元し、横浜市立大学としてのプレゼンスを高めていく必要があります。一方で、消費税増税等の影響により、本法人の収支状況は厳しくなっており、従来の手法を転換し、スクラップ・アンド・ビルドやさらなる業務の効率化を徹底することが不可欠となっていることから、例年以上に「選択と集中」を徹底した予算編成となっています。

このような状況のもと、平成 28 年度は、留学生の受入拡充に向けた取組や学生交流の充実等グローバル化の一層の推進、附属 2 病院の診療機能の向上につなげるための施設整備、本学の特色をアピールする戦略的な広報推進をはじめ、第 3 期の足固めとなる取組を進めます。

～YCU PLAN とは～

公立大学法人横浜市立大学が当該事業年度に取り組む主な事業、年度計画が分かるようにまとめた冊子です。第 2 期中期計画期間初年度から作成しています（平成 22 年度までは「予算概要」という名称）。YCU PLAN をご覧になることで、本学が取り組む当該事業年度の特徴ある事業について把握することができます。なお、過年度のものを含め、本学ウェブサイト上にて公開していますので、是非ご参照ください。

URL：<http://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/corp/finance/finance.html>

＜用語解説＞

①中期目標・・・【根拠法令】地方独立行政法人法第 25 条・78 条

設立団体（横浜市）が、法人が達成すべき業務運営に関する目標を定め、法人に対して指示したものです。なお、公立大学法人については、特例により中期目標期間が 6 年間となっています。

②中期計画・・・【根拠法令】地方独立行政法人法第 26 条

法人が策定した上で、設立団体の長（横浜市長）の認可が必要になります。設立団体（横浜市）の指示（中期目標）に基づき、法人が計画的に業務を実施し、中期目標を達成するために策定するものです。

なお、本法人においては、

第 1 期中期計画期間：平成 17 年度～平成 22 年度

第 2 期中期計画期間：平成 23 年度～平成 28 年度

であり、平成 28 年度は第 2 期中期計画期間の最終年度にあたります。

③年度計画・・・【根拠法令】地方独立行政法人法第 27 条

事業年度の開始前に、中期計画に基づき、その事業年度の業務運営に関する計画を定めたものです。当該事業年度の法人全体（教育・研究・医療・法人経営）の取組について、個別具体的に記載した計画となります。

④予算・・・【根拠法令】地方独立行政法人法第 27 条 ※年度計画の一部

年度計画に基づく法人における教育、研究、診療その他の活動に関する計画を明確に計数化したものです。本法人では、大学、附属病院、附属市民総合医療センターの 3 部門をそれぞれ予算単位としていますが、最終的には 3 部門を合算して法人として表示しています。

目 次

公立大学法人横浜市立大学 平成 28 年度計画概要図…………… 1、2 頁

<平成 28 年度 主な取組>

- I 教育・研究…………… 3－5 頁
- II 医療…………… 6、7 頁
- III 法人経営…………… 8 頁

<平成 28 年度 見込損益計算書>

- 【法人全体】…………… 9 頁
- 【大 学】…………… 10 頁
- 【附属病院】…………… 11 頁
- 【附属市民総合医療センター】…………… 12 頁

参 考 平成 28 年度 法人全体収支計画（現金ベース）…………… 13 頁

※計数について、単位未満で四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

《YCUミッション》

横浜市立大学は、国際都市横浜における知識基盤社会の都市社会インフラとして、特に教育研究・医療の拠点機能を担うことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。

※国際化、地域貢献は、教育、研究、医療という本学における全活動の共通目標です。

28年度の位置付け

平成28年度は、第2期中期計画(23~28年度)の最終年度にあたります。現中期計画の確実な達成と、第3期中期計画を見据えた取組を実施していきます。

国の動き等

【大学改革実行プラン】

横浜市

国立大学 第3期中期目標
(YCU関連)
中期4か年計画 大学と連
・地域医療

YCU

第3期中期目標策定

第3期中期計画策定

留学生の受入拡充等
グローバル化の一層の推進

第2期中期計画の実績

- H
2
3
- ◇ GCI(グローバル都市協力研究センター)設置
 - ◇ 学術院設置
 - ◇ 病院機能評価Ver.6.0認定(附)
 - ◇ 精神科救急入院料1(スーパー救急)を取得(セ)

- H
2
4
- ◇ 国際総合科学部コース再編
 - ◇ 医学教育センター設置
 - ◇ 5教科7科目型の実施等の入試改革
 - ◇ 先端医科学研究センター新研究棟竣工
 - ◇ 生殖医療センター開設(セ)
 - ◇ 初期臨床研修医フルマッチ達成(両病院)

- H
2
5
- ◇ 生命医科学研究科設置
 - ◇ 大学院科目早期履修制度開始
 - ◇ 大学COC事業採択
 - ◇ 再生医療実現拠点ネットワークプログラム採択
 - ◇ 医療の質向上センター設置(附)
 - ◇ 理学系研究棟竣工

- H
2
6
- ◇ キャリア支援センター設置
 - ◇ ボランティア支援室設置
 - ◇ 横浜臨床研究ネットワーク発足
 - ◇ 手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)導入(附)
 - ◇ 地域がん診療連携拠点病院 指定(セ)
 - ※附はH19年に指定
 - ◇ 病院機能評価3rdG:Ver1.0認定(セ)
 - ◇ YCU職員育成プロジェクト実施

- H
2
7
- ◇ アカデミックコンソーシアム総会横浜開催
 - ◇ 医学部医学科で特別推薦入試を実施
 - ◇ YCUスクエア竣工
 - ◇ URA推進室設置
 - ◇ 先端医科学研究センター研究棟増築
 - ◇ 次世代臨床研究センター設置
 - ◇ 看護キャリア開発支援センター設置

教育

◇ グローバル人材の育成・国際交流の推進

- ・アカデミックコンソーシアムのネットワーク等を活用した留学生交流の充実、及びSUDP(持続可能な都市づくり共通教育)
- ・英語のみで授業を行うグローバル・スタディーズプログラム
- ・PE単位取得後の英語教育の充実及びライティングセッション
- ・JICA人材育成支援プログラム等を通じた優秀な留学生の受
- 及び医学研究科でのサイエンス・サマープログラムの実施
- ・海外でのリサーチ・クラークシップ、クリニカル・クラークシップ
- ・生命ナノシステム科学研究科における国際リリート科目の

◇ 教育の質の向上に向けた取組の推進

- ・大学入学者選抜改革に向けた本学の対応の検討
- ・学士課程におけるサービスビジネスや医療経営分野の横断の立ち上げ
- ・大学院国際マネジメント研究科におけるサービスサイエンス始

◇ 医学教育の質の保証

- ・高い実践能力育成に向けた臨床実習等の拡充
- ・国家試験対策の強化による高い合格率の維持

◇ 医療現場のニーズに即した教育体制の構築

- ・医学研究科看護学専攻修士課程の定員増と高度実践看護師(CNS)教育課程等の拡充
- ・地域医療機関における実習指導者育成の推進

◇ 学生支援の充実

- ・障害学生支援体制の整備及び支援チームの連携強化
- ・企業や卒業生に対するアンケートの実施とキャリア支援体制

◇ 地域貢献の推進

- ・行政や民間企業、地域等と連携した、教員や学生による様々
- ・並木ラボを中心とした、行政や地域住民と連携した地域活性

法人経営

◇ ガバナンス・コンプライアンス

第3期計画策定を通じた方向性の共有、研究不正防止対策の強化

◇ 人材育成

研修の充実等によるプロ職員を目指した育成、女性教職員の活躍推進



診療機能向上等のための
2病院の施設整備

YCUブランド確立のための
戦略的な広報推進

研究

- ◇魅力ある大学づくりを目指した研究の特徴づけと質の向上
 - ・本学の特徴的な研究を行う「戦略的研究」、大学教育に資する「学術的研究」の推進
 - ・若手研究者育成、支援や女性研究者活躍支援等社会ニーズを踏まえた取組
 - ・産学連携の一層の推進と先端医科学研究センターをはじめとする研究拠点機能の推進
- ◇研究基盤の充実と研究情報の積極的な発信
 - ・URA推進室の体制整備強化、知財機能の充実、研究支援の拡充
 - ・researchmapの充実による研究力の把握と学外への積極的な情報の発信

2病院

※【附】は附属病院、【セ】は市民総合医療センターの取組を示す。

- ◇市の政策医療への対応・医療機能の充実
 - ・診療と研究による横浜市がん撲滅対策推進条例への対応
 - ・横浜市小児がん連携病院としての取組【附】
 - ・地域医療連携のためのスペース拡大や診療スペースの再編、投資的な観点に基づく医療機器の更新【セ】
 - ・中央手術室の増室及び重症系病床の再編整備【附】
 - ・次世代臨床研究センターを中心とした臨床研究や治験の推進、臨床研究中核病院の認定への取組
- ◇医師や看護師等の人材育成・確保・労働環境整備
 - ・29年度からの新たな専門医制度の施行を踏まえた医師養成
 - ・女性医師支援に向けた取組
 - ・看護キャリア開発支援センターを主体とした一貫した看護師のキャリア開発
- ◇医療安全管理体制・病院の運営等
 - ・医療安全管理対策の推進
 - ・入退院支援窓口の整備に向けた検討
 - ・診療機能と患者の利便性向上のための施設整備
 - ・病院機能評価の受審

学術院における教員の連携促進

切れ目のない医療人材育成

生受け入れや学
プログラム)の拡充
の立ち上げ
の設置準備
け入れ、

の充実
設置

型教育プログラム
研究プログラムの開

への反映

な取組の実施
化の推進

◇寄附制度の拡充
留学支援奨学金新設等の
用途の明確化や組織的な周
知・募金の推進

◇広報充実・卒業生連携強化
Webサイトのリニューアルによ
る発信力向上、広報誌発行等
を通じた卒業生との関係強化

◇個人情報保護・ICT環境整備
点検・研修等を通じた個人情報保
護の徹底、現システムの課題を踏ま
えたICT環境整備計画の策定

I 教育・研究に関する主な取組

1 教育・学生支援の充実

■グローバル人材の育成・国際交流の推進

●英語で行う授業の充実

本学のグローバル化をより一層推進するため、英語で行う教育プログラムとして、グローバル・スタディーズプログラムを立ち上げ、留学生や協定校の獲得を目指します。

「Practical English」(PE)においては、ディスカッション、タスクワーク(アクティブ・ラーニング)など英語を使う形態で、反転授業を試行します。また、「Advanced Practical English」(APE)において、内容、開講時限を理学系学生に配慮した理学系優先クラスを1クラス開講するとともに、医学科生のレベルやニーズ(医学の専門的な内容の学習等)に合ったAPEクラスを提供する等、PE単位取得後の英語教育の充実を進めます。

大学院においては、生命ナノシステム科学研究科で実施し、28年度から正規科目化する「国際リトリート」を中心に、各研究科において海外大学との交流を積極的に進め、英語による研究発表等、研究活動に基づいた実践的な英語利用の機会を提供します。

●キャンパスのグローバル化に向けた取組

平成28年度は、サイエンス・サマープログラムを医学研究科主体で実施し、国際交流協定を締結している海外大学等と本学の研究者や学生間の交流を図ります。また、独立行政法人国際協力機構(JICA)における人材育成支援プログラム等を活用し、優秀な留学生を受け入れ、学生交流を推進します。

●アカデミックコンソーシアム事業

第7回アカデミックコンソーシアム総会をマレーシア科学大学(ペナン)にて開催するとともに、アカデミックコンソーシアム事業(IACSC)の発展期にふさわしい運営体制となるよう見直しを行います。また、ベトナム国家大学においてSUDP*を新規開講すると共に、まだ開講していないメンバー大学にも拡充するよう取り組みます。

(写真：IACSC2015)



*Sustainable Urban Development Program :

持続可能な都市づくり共通教育プログラム

■教育の質の向上に向けた取組の推進

●特色ある教育プログラムの立ち上げ

国際総合科学部生を対象に、特定の分野において特徴的な科目を体系的に学ぶ教育プログラム(グローバル、サービスビジネス、医療経営の各分野)を実施します。また、国際マネジメント研究科においては、サービスサイエンス研究プログラムを開始します。

■医学教育の質の保証

臨床実習 70 週化を見据え、学生の実践能力向上を図るために、実習中の多角的な学生評価方法について見直しを行うほか、実習終了後のアウトカム評価のために PCC-OSCE*の導入についても検討します。また国家試験の高い合格率を維持していくために、国家試験対策授業の強化を図ります。

*PCC-OSCE (Post Clinical Clerkship-Objective Structured Clinical Examination) :

臨床実習終了後におこなう客観的臨床能力試験

■医療現場のニーズに即した教育体制の充実

医療現場における専門看護師に対するニーズの高まりを受け、修士課程の定員を 20 名に増員するとともに、CNS（高度実践看護師教育課程）コースの拡充や周麻酔期看護学コースの設置を進めていきます。

また、地域医療機関における看護教育の質的向上を支援するため、「看護キャリア開発支援センター」と連携しながら、昨年度に引き続き「保健師助産師看護師実習指導者講習会」（神奈川県委託事業）を開催し、実習指導者の育成を推進します。



(写真：平成 27 年度の保健師助産師看護師実習指導者講習会)

■学生支援の充実

障害者差別解消法の施行を受け、障害学生支援体制を整備し、支援チームの連携をより一層強化します。また、企業や卒業生に対するアンケートを実施し、本学学生の外部での評価を的確に把握、本学のキャリア支援体制に反映します。

■地域貢献の推進

横浜市をはじめとする行政や民間企業、地域等と連携した、教員や学生による様々な取組を実施します。またボランティア支援室による独自プログラムの企画等を学生スタッフとともに立案・実施し、学生による地域貢献活動など、ボランティア支援室を窓口として行政や地域等と連携した取組を実施します。

さらに、引き続き UDCN 並木ラボ（金沢センターシーサイド）を中心として、行政や地域住民と連携した様々な取組を実施し、地域活性化を推進します。

2 研究の推進

■魅力ある大学づくりを目指した研究の特徴づけと質の向上

研究力の向上を図るため、大学教育に資する「学術的研究」を推進するとともに、本学の特長的な分野については「戦略的研究」と位置付けさらに強化していきます。

また、若手研究者の育成支援、女性研究者の活躍支援をはじめ、社会のニーズに沿った様々な取組を進めます。

■研究基盤の充実と研究情報の積極的な発信

平成 27 年度に開設した URA 推進室では、体制の充実を図り、研究支援を更に拡充していきます。また、本学の Web サイトはもちろんのこと、researchmap*のより一層の充実を図り、研究活動の状況を把握するとともに、学外への研究の積極的な情報発信に取り組みます。

*researchmap :

科学技術振興機構（JST）がサービスの提供及び運用を行っている国内最大級の研究者情報のデータベース

～YCU スクエア完成・学生サービスの更なる向上を図ります！～

平成 28 年 4 月、金沢八景キャンパスに YCU スクエアがオープンしました。正門近くに立地し、横浜市立大学金沢八景キャンパスのシンボルとなる建物です。学生や教職員の活動場所として、また地域と大学をつなぐスペースとして、大いに活用される予定です。

<施設の特徴>

- ①学生が自主的学習、活動を行えるスペースとして「スチューデントオフィス」を 17 室整備します。
- ②各階に 300 人教室をはじめとする大小様々な教室を設置し、多種多様な教育・学習に対応するとともに、公開講座など、地域開放にも活用します。
- ③キャンパス内に点在していたキャリア支援、留学支援等の各種学生窓口を一カ所に集め、「ワンストップ・サービス」を実施し、学生の利便性向上を図ります。



Ⅱ 2 病院に関する主な取組

(附属病院の取組は【附】、附属市民総合医療センターの取組は【セ】)

■市の政策医療への対応・医療機能の充実

●診療と研究による「横浜市がん撲滅対策推進条例」への対応【附】【セ】

平成 26 年 10 月に施行された「横浜市がん撲滅対策推進条例」に掲げられた総合的ながん対策の推進を図るため、引き続き、地域がん診療連携拠点病院としての高度ながん医療の推進、地域医療機関との連携強化、ピアサポート体制の整備（附属病院）等、がん相談支援の充実や先進的ながん医療研究の推進等を図ります。

●横浜市小児がん連携病院としての取組【附】

従来指定されていた「地域がん診療連携拠点病院」としてのみならず、平成 27 年度より新たに指定された「横浜市小児がん連携病院」として、診療の連携を円滑に行い、市内の小児がん診療を充実させます。

●地域医療連携のためのスペース拡大や診療スペースの再編、投資的な観点に基づく医療機器の更新【セ】

診療機能の向上と患者の利便性の向上を図るため、本館 3 階の旧カルテ庫跡地等を活用して、地域医療連携を推進するスペースを拡大するとともに、診療スペースの再編を行います。また、各診療科で高度な医療を支える医療機器や、診療をささえるインフラとしての画像システム・放射線機器などについて、患者に及ぼす影響や採算性等をきめ細かく評価しつつ、投資的な観点に基づいて更新を進めます。

●中央手術室の増室及び重症系病床の再編整備【附】

手術件数の増加に伴い飽和状態に達している中央手術室を増室し、手術待ち件数の解消と、更なる手術件数の増加を図ります。

また、手術室の増室に伴う手術件数の増加に対応するため、ICU・HCU 等の重症系病床の配分及び受け入れ態勢の再編成、集中治療部への部門システムの新規導入を実施し、手術部・集中治療部を一体的かつ効率的に運用します。

■医師や看護師等の人材育成・確保・労働環境整備

●新たな専門医制度の施行を踏まえた医師養成【附】【セ】

平成 29 年度からの新たな専門医制度の施行に伴い、新制度への移行が円滑に進むよう、「横浜市立大学附属病院群専門医養成プログラム」を策定し、協力病院の指導医の協力も得ながら地域医療に貢献できる専門医を養成します。

●女性医師支援に向けた取組【附】【セ】

平成 26 年に常設の委員会として立ち上げた育児支援委員会を中心に、女性医師や育児中の医師に対する支援策の検討を行うほか、県と随時、情報交換を行い、助成制度の策定等について要望を行い、支援の充実を図ります。

●看護キャリア開発支援センターを主体とした

一貫した看護師のキャリア開発【2病院・看護学科】

学生教育、採用・確保から生涯教育までのキャリア開発の一貫した企画立案、実行及び多職種協働の推進を目的として平成27年度に設置された看護キャリア開発支援センターが主体となり、効率的・効果的な看護職員確保に加え、看護学科生に対する就職支援活動や現職看護職のキャリア支援、魅力ある職場作り等に取り組みます。

■医療安全管理体制・病院の運営等

●医療安全管理対策の推進【附】【セ】

附属病院では、「医療の質向上センター」を中心として、事故のない安全な医療を提供するため、引き続き、職種の壁を超えたチーム医療を実践するための研修（チームステップス研修）や、インシデント報告に基づくマニュアル作成、見直し等を行います。また、厚生労働省による特定機能病院の承認要件等の見直しに係る検討の経過を受けて、的確な対応を図ります。

附属市民総合医療センターでは、引き続き、リスクマネージャー会議や安全管理対策委員会を通じた医療安全確保に関する情報共有と周知を行うほか、院内の幅広い関係部署と定期的にミーティングを実施し、インシデント等を未然に防ぐ取組を継続します。

●入退院支援窓口の整備に向けた検討【附】【セ】

前年度に整備した入院事務に関する受付・調整窓口を一元化した「入院サポートコーナー」（附属病院）、「入院センター（仮称）」（附属市民総合医療センター）について、円滑に運用するとともに、更なる患者の利便性向上や効率的な病床運用、医師・看護師等の業務負担軽減のために、退院調整機能の集約について検討を進めます。

●診療機能と患者の利便性向上のための施設整備【附】【セ】

診療機能と患者の利便性の向上のために、附属病院では、平成26年度に移転・拡充した化学療法センター跡地を活用し、採血室の拡張と外来診療ブースの混雑緩和を図ります。

附属市民総合医療センターでは、本館3階の旧カルテ庫跡地等を活用し、地域医療連携のスペース拡大や診療スペースを再編します。

●病院機能評価の受審【附】【セ】

附属病院では、推進委員会及びワーキングにおける自己評価結果に基づく改善活動に取り組み、今年度の病院機能評価の受審に備えるとともに、受審後も継続して医療の質を改善していく体制を整えます。

附属市民総合医療センターでは、前回の病院機能評価認定時（平成26年3月受審、8月認定）の課題の中で、引き続き必要な改善に対する取組を実施し、認定から3年目となる病院が対象となる「期中の確認」を受けます。

Ⅲ 法人経営に関する取組

■ガバナンス・コンプライアンス

第3期中期計画の策定に向けた各会議体での議論や教職員に向けた策定状況の発信等を通じた法人の方針や課題の全学的共有を進めるとともに、研究不正防止に関する更なる意識啓発や、論文不正防止に向けた環境整備等を行います。

■人材育成

法人職員としてのプロフェッショナルを目指した研修の実施やキャリアプランの明確化など、平成28年4月に改定する「人材育成プラン」に基づく職員育成に取り組みます。また、「第3期ワーク・ライフ・バランス行動計画（平成27～28年度）」に基づき、女性教職員の活躍支援や働き方の変革に向けた取組を行い、全ての職員が意欲と能力を十分発揮できる職場環境作りを推進します。

■寄附制度の拡充

寄附金の新たな活用方法として、留学支援のための奨学金制度「YCU 留学サポート奨学金」を創設するなど、寄附金の使い道をより分かりやすくした寄附募集を実施するほか、教職員幹部を中心とした全学的な募金活動や大学 Web サイトの充実等により、幅広い支援者や寄附の獲得に向けた取組を進めます。

■広報充実・卒業生連携強化

●大学 Web サイトリニューアルなどによる発信力向上

本学の広報の基本方針を学内で共有し、本学の特色をさらにアピールするための活動を展開します。また、大学 Web サイトをリニューアルし、近年増えているスマートフォンでの閲覧を意識した改善等を行い、受験生を中心とした様々なステークホルダーへの発信力を高めます。

●卒業生への情報発信

卒業生向け広報誌「YCU 通信」を引き続き発行し、情報を積極的に発信します。また、秋のホームカミングデーの開催、同窓会組織の会合への教職員の参加を通じた関係強化とともに、キャリアサポーターの集い*を開催し、若い世代の卒業生とのつながりも強化します。

*キャリアサポーターの集い：

後輩の就職活動を支援する「キャリアサポーター」に登録した卒業生が卒業生同士の交流を深める会。



(写真：27年度のホームカミングデー)

■個人情報保護・ICT 環境整備

●個人情報に関する研修実施

個人情報の取扱いに関する各種点検や研修、個人番号関係事務を扱う所属を対象に特定個人情報の取扱いに関する研修を実施します。

●ICT 環境整備計画の策定

第3期中期計画期間に対応した ICT 環境整備計画の策定を通じて、全学的な ICT 環境の向上を図ります。

【法人全体】見込損益計算書

(単位：百万円)

<経常収益>

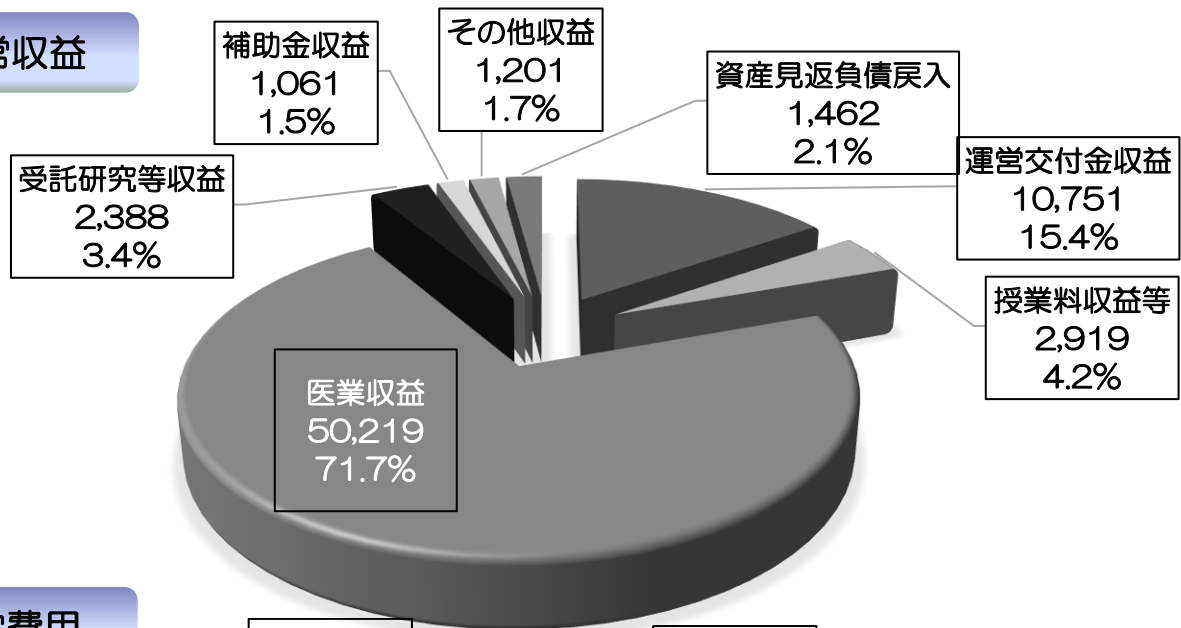
区分	H28予算	H27予算	差引
運営交付金収益	10,751	10,585	166
授業料収益等	2,919	2,880	39
医業収益	50,219	47,469	2,750
受託研究等収益	2,388	1,682	706
補助金収益	1,061	1,055	6
その他収益	1,201	863	338
資産見返負債戻入	1,462	1,429	33
経常収益 合計	70,001	65,963	4,038

<経常費用>

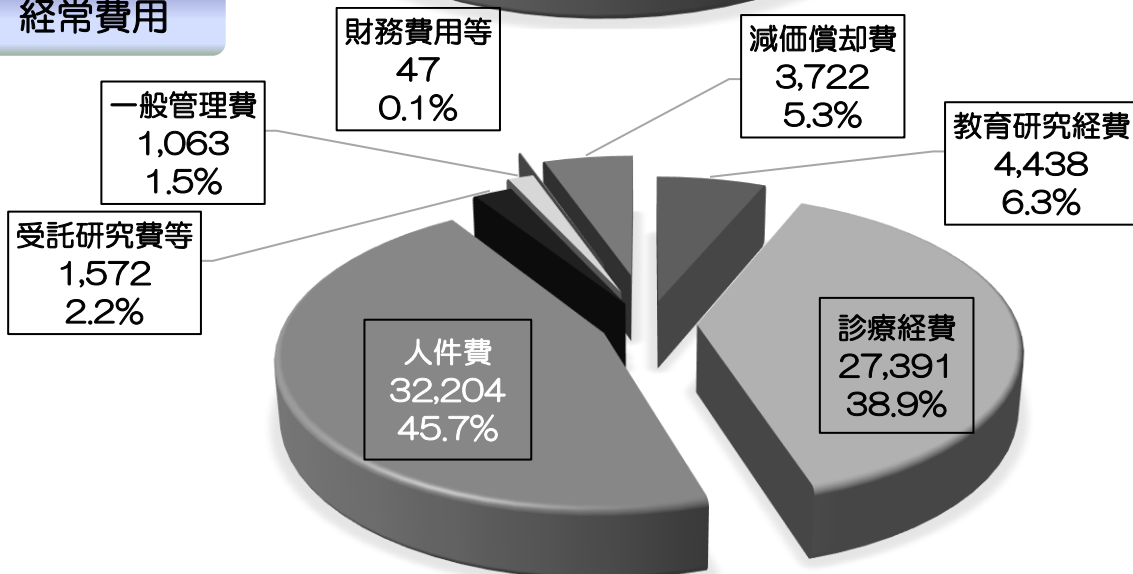
区分	H28予算	H27予算	差引
教育研究経費	4,438	3,778	660
診療経費	27,391	26,411	980
人件費	32,204	30,297	1,907
受託研究費等	1,572	1,208	364
一般管理費	1,063	1,033	30
財務費用等	47	49	▲2
減価償却費	3,722	3,441	281
経常費用 合計	70,437	66,217	4,220

当期純損益	▲436	▲254	▲182
目的積立金取崩額	436	254	182
当期総損益	0	0	0

経常収益



経常費用



【大学】見込損益計算書

(単位：百万円)

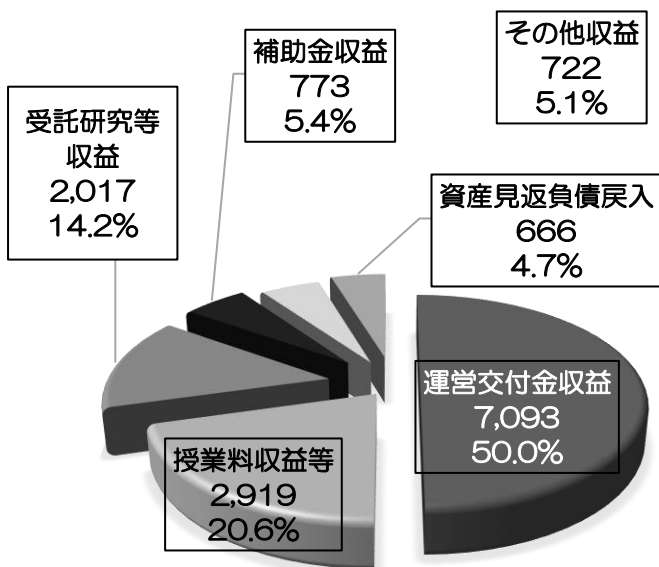
<経常収益>

区分	H28予算	H27予算	差引	主な増減等
運営交付金収益	7,093	7,008	85	交付額の増
授業料収益等	2,919	2,880	39	広報拡充に伴う志願者増
受託研究等収益	2,017	1,328	689	受託研究費等の増
補助金収益	773	761	12	
その他収益	722	435	287	八景C再整備負担金(受入)の増
資産見返負債戻入	666	713	▲47	償却対象資産の減少に伴う減
経常収益 合計	14,190	13,125	1,065	

<経常費用>

区分	H28予算	H27予算	差引	主な増減等
教育経費	1,712	1,439	273	八景C再整備負担金増に伴う支出増
研究経費	2,021	1,738	283	奨学寄附金獲得増に伴う支出増
教育研究支援経費	432	319	113	電子ジャーナル等の増
人件費	7,470	7,258	212	教職員人件費の増
受託研究費等	1,201	884	317	受託研究獲得増に伴う支出増
一般管理費	714	724	▲10	
財務費用等	5	5	0	
減価償却費	807	856	▲49	償却対象資産の減少に伴う減
経常費用 合計	14,362	13,223	1,139	

当期純損益	▲172	▲98	▲74	
目的積立金取崩額	172	98	74	退職給付引当金数理計算上の差異等
当期総損益	0	0	0	

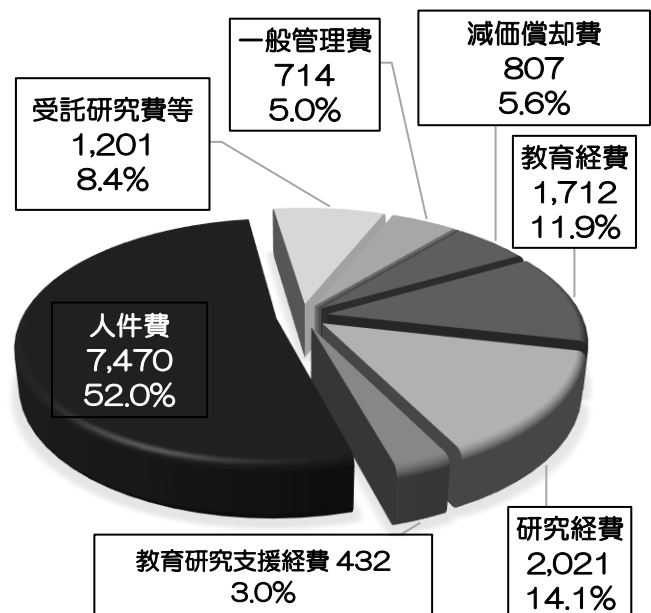


経常収益

- 運営交付金収益
学費対象経費、学費対象外経費、退職手当(市負担分)
- 授業料収益等
授業料等 2,557
入学検定料 100
入学金 262
- 外部資金(受託研究等収益、補助金収益)
受託・共同研究、奨学寄附金、補助金等
- その他収益
実験実習費・施設整備費(学生納付金)、寄附金、八景C再整備横浜市負担金、エクステンション講座収入等

経常費用

- 教育経費、教育研究支援経費
教材・実習費、授業料減免、図書館運営費、教育関連機器・設備維持管理費等
- 研究経費
補助金、奨学寄附金等の外部研究費等
- 受託研究費等
受託・共同研究、受託・共同事業
- 人件費
教員給与、職員給与、退職手当関連
- 一般管理費、財務費用等
八景C国有地賃借料、施設管理等の経費、損害保険料、リース支払利息、為替差損等



【附属病院】見込損益計算書

(単位：百万円)

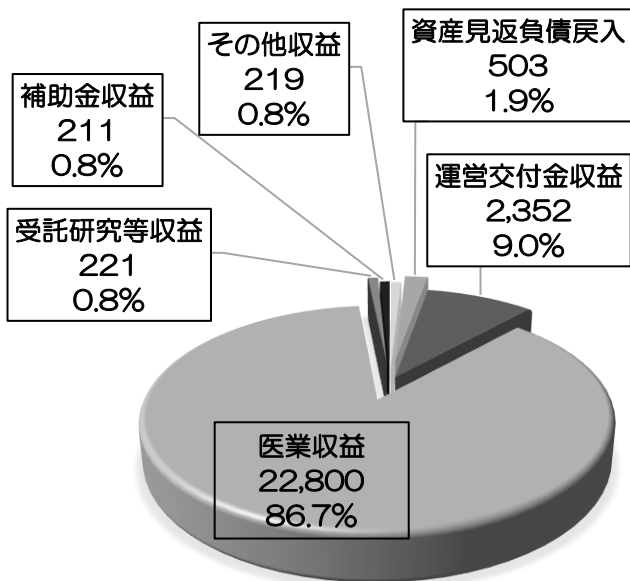
<経常収益>

区分	H28予算	H27予算	差引	主な増減等
運営交付金収益	2,352	2,308	44	退職手当(市負担分)の増に伴う収益増
医業収益	22,800	21,711	1,089	診療単価の増(入院・外来)、患者数の増(入院)
受託研究等収益	221	174	47	次世代臨床研究センター治験収入の増
補助金収益	211	196	15	二次救急輪番補助金の増
その他収益	219	232	▲ 13	二次救急輪番受託金の減
資産見返負債戻入	503	375	128	償却対象資産の増加に伴う増
経常収益 合計	26,306	24,996	1,310	

<経常費用>

区分	H28予算	H27予算	差引	主な増減等
教育研究経費	120	128	▲ 8	
診療経費	12,578	12,348	230	医薬材料費の増
人件費	11,658	10,944	714	教職員人件費の増
受託研究費等	221	174	47	次世代臨床研究センター受託研究費の増
一般管理費	166	151	15	看護職員確保事業費の増
財務費用等	31	32	▲ 1	
減価償却費	1,702	1,354	348	償却対象資産の増加に伴う増
経常費用 合計	26,476	25,131	1,345	

当期純損益	▲ 170	▲ 135	▲ 35	
目的積立金取崩額	170	135	35	退職給付引当金数理計算上の差異等
当期総損益	0	0	0	

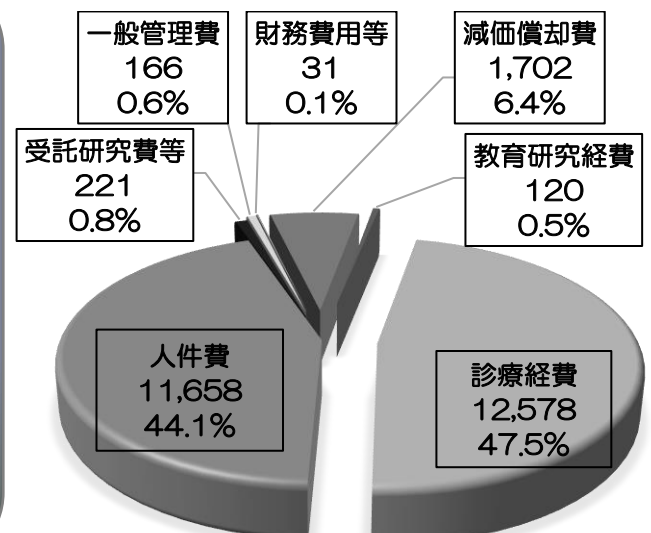


経常収益

- 運営交付金収益
収益的収支(退職手当市負担含む)、資本的収支分のうち資産取得分除く
- 医業収益
入院診療収益 15,230
外来診療収益 7,352
その他(査定減含む) 218
- 外部資金(受託研究等収益、補助金収益)
治験、臨床研修費補助金等
- その他収益
駐車場利用料、院内保育料、看護宿舍料等

経常費用

- 教育研究経費
臨床研修関連費用、病院研究費等
- 診療経費
医薬材料費 8,173
委託費 2,138
その他 2,267
- 受託研究費等
治験関連費用
- 人件費
教員給与、職員給与、退職手当関連
- 一般管理費、財務費用等
施設管理等の経費、損害保険料、リース支払利息



【附属市民総合医療センター】見込損益計算書

(単位：百万円)

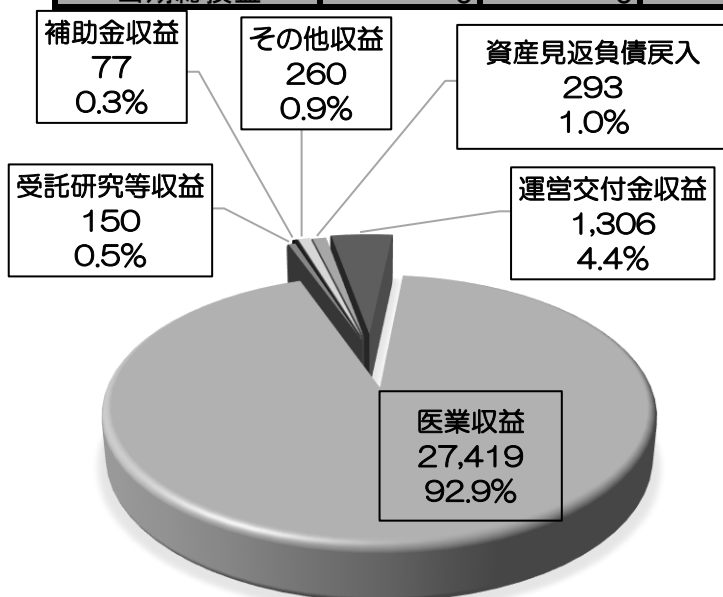
<経常収益>

区分	H28予算	H27予算	差引	主な増減等
運営交付金収益	1,306	1,269	37	借入償還金補助額の増
医業収益	27,419	25,758	1,661	診療単価の増(入院・外来)
受託研究等収益	150	180	▲ 30	受託研究収益の減
補助金収益	77	98	▲ 21	臨床研修費補助金の減
その他収益	260	196	64	南区エネルギー連携に伴う電気料収入による増
資産見返負債戻入	293	341	▲ 48	償却対象資産の減少に伴う減
経常収益 合計	29,505	27,842	1,663	

<経常費用>

区分	H28予算	H27予算	差引	主な増減等
教育研究経費	153	154	▲ 1	
診療経費	14,813	14,063	750	医薬材料費の増
人件費	13,076	12,095	981	職員人件費の増
受託研究費等	150	150	0	
一般管理費	183	158	25	委託費の増
財務費用等	11	12	▲ 1	
減価償却費	1,213	1,231	▲ 18	償却対象資産の減少に伴う減
経常費用 合計	29,599	27,863	1,736	

当期純損益	▲ 94	▲ 21	▲ 73	
目的積立金取崩額	94	21	73	退職給付引当金数理計算上の差異等
当期総損益	0	0	0	

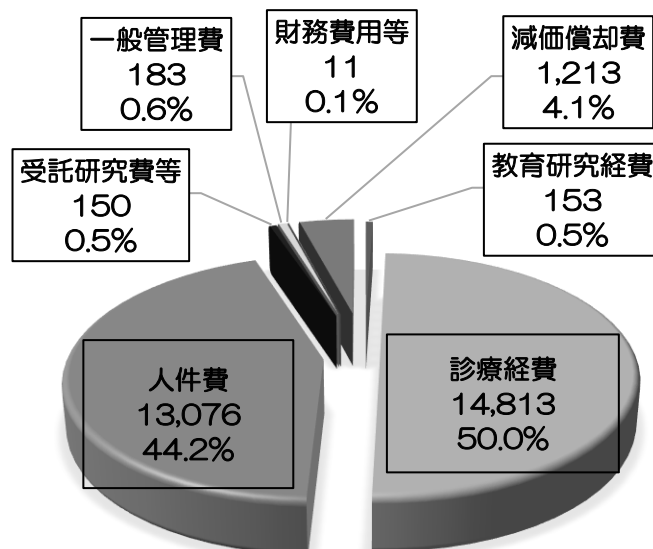


経常収益

- 運営交付金収益
収益的収支(退職手当市負担含む)、資本的収支分のうち資産取得分除く
- 医業収益
入院診療収益 18,650
外来診療収益 8,395
その他(査定減含む) 374
- 外部資金(受託研究等収益、補助金収益)
治験、臨床研修費補助金等
- その他収益
駐車場利用料、院内保育料、看護宿舍料等

経常費用

- 教育研究経費
臨床研修関連費用、病院研究費等
- 診療経費
医薬材料費 10,052
委託費 2,386
その他 2,375
- 受託研究費等
治験関連費用
- 人件費
教員給与、職員給与、退職手当関連
- 一般管理費、財務費用等
施設管理等の経費、損害保険料、リース支払利息



参 考

平成28年度 法人収支計画（現金ベース）

<収益的収支>

（単位：百万円）

	平成28年度予算
運営交付金 A	9,918
自己収入	55,371
授業料及び入学金検定料	2,808
附属病院収入	50,219
補助金収入	1,086
その他収入	1,258
受託研究収入等	2,389
貸付金収入(奨学金返還金)	23
目的積立金取崩額 C	333
収益的収入 合計	68,034

	平成28年度予算
業務費	64,936
教育研究経費	4,439
診療経費	27,881
一般管理費	1,101
人件費	31,515
貸付金(奨学金)	65
受託研究費等	1,641
収益的支出 合計	66,642

<資本的収支>

（単位：百万円）

	平成28年度予算
運営交付金 B	2,676
長期借入金収入	1,000
目的積立金取崩額 D	430
その他自己収入	54
資本的収入 合計	4,160

	平成28年度予算
施設整備費	3,382
長期借入金償還金	1,289
資本的支出 合計	4,671

<参考>

（単位：百万円）

	平成28年度予算
全体(収入－支出)	881
目的積立金取崩額 C+D	763
運営交付金交付額 A+B	12,594

※単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。